

園長	次長	係長	主任
		 	

令和元年度 第1回
認知症対応型通所介護 運営推進会議 会議録

(定例 ・ 臨時)

令和 元年 7月 10日 (水曜日)		司会	記録
午後 1時 30分 ~ 午後 2時 30分		長澤	赤城
【出席者】 運営推進委員:9人 事務局:4人 計 13人		【欠席者】	
議 題	協 議 内 容 ・ 結 果		
○ 園長より	<p>年度が替わりまして、今年度はじめての認知症対応型デイサービスの運営推進会議となります。地域の皆様のご協力のもと、今年度も3ヶ月、大きな事故もなく経過してきたことに感謝している次第です。</p> <p>地域の中で存在意義を発揮してこそそのうずらはしと日々思っております。人手不足が言われて久しい中、介護業界に向ける目が厳しくなっておりますが、この会議のように地域の皆さま行政の皆様と情報交換する場は、開かれた施設であるためにも非常に貴重な場です。活発なご意見ご感想をいただき、実りある会議となりますよう、ご協力よろしく申し上げます。</p>		
○ 委員/事務局紹介	<p>・変更点</p> <p><委 員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者身元引受人:白井委員→田中委員 ・五泉市高齢福祉課:井上委員→本宮委員 		
○ 平成30年度事業報告	<p>資料に基づいて説明</p>		
○ 令和元年度事業計画			
○ 現況報告	<p>・DS重点項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出掛けることが楽しみとなる心地よい居場所」 ・他職種の連携強化 ・認知症ケア ・脳活性化プログラムの活用による生きがい作り、認知症予防、身体機能低下防止 <p>の4点となります。</p>		

議 題	協 議 内 容 ・ 結 果
	<p>実際にこの重点項目をどうやって活かしていくかになりますが、うずらはしデイサービスには、数年実施してきた活動がいっぱいあり、その中でも「うずら畑」や「季節にあった調理活動」、「脳の活性化を図るためパズルや文字合わせ」等いろいろあります。さらに活動を増やすことはせず、現在行っている活動に意味を持ってもらい実施しています。ただ利用者の皆さんに活動をしてもらうだけでなく、そこに職員から利用者へ働きかける(声を掛ける)事によって、利用者の皆さんが「うずらはしが心地よい場所」「自信が持てるように」という効果が得られるように、現在行っています。資料にもありますが、活動+働きかけ=効果となります。</p> <p>職員全体で、働きかけの方法として、「誉める」「励ます」「認める」の3つを実践しています。</p> <p>ただ「活動を開催する」だけでは、利用者は活動に参加した思い出しか残りません。その他に思い出にも残らないかもしれません。活動を通して、利用者がその活動を出来たことを「誉めたり」、たまたまその日に活動の達成が出来なかった時に「励ましたり」、利用者の行動、作業等をしてもらった事にお礼を伝え「認める」ことで、利用者には自分はまだ「必要とされている」、「自信につながる」ように「誉める」「励ます」「認める」を意識して働きかけを実践しています。</p> <p>どうして「誉める・励ます・認める」が必要なのかについてですが、認知症の性質から、「認知症の基本的なかわり方」や、「認知症の初期症状」は自分自身の行動に戸惑いや不安を自覚したり、新しいことを忘れて、時間と場所が分からなくなることがあげられます。</p> <p>家庭面の性質から、高齢者夫婦世帯や高齢者の一人暮らしの増加や、家庭での役割の喪失や、家族関係があげられます。</p> <p>そこから、強い不安感、寂しさ、喪失感となり、「誉める・励ます・認める」の働きかけ方法は、認知症や家庭面のどちらも有効となります。</p> <p>◇具体的な接し方として、本人が心地よく「大事にされている」と実感できる接し方は、「励ましたり」「支える」「認める」「誉める」を基本として、同時に「相手と腕を組んだり、肩を抱いたり、手を握ったり、膝に手を添えたり」して、さりげなく、優しくボディタッチを入れることが有効的になります。</p> <p>◇本人の話は良く「聞き」、「肯定」し、「認め」ましょう。これについては、間違ったことを言っても否定せず、受け入れます。失敗したことを指摘したり、怒ったりすることは、一番してはいけない対応であり、「利用者に寂しい思いをさせない」ことがこの対応のスタートになります。</p> <p>◇仲間になって一緒に楽しみましょう。</p> <p>喜んだり、笑ったりする際は、相手にこちらの感情を伝えるために、多少オーバーにしています。活動の進行役以外のスタッフは盛り上げ役となり、大きく笑い、合いの手を入れて一緒に楽しんで、盛り上げています。</p> <p>◇認知症があっても、気持ちを見抜くことは早いです。</p> <p>スタッフが嫌々やっている、やる気のない姿はすぐに相手に伝わってしまいます。</p> <p>◇自分でできるように励ましましょう。</p> <p>すべてを教えてしまわず、ヒントを伝えることにより、脳が働きます。励ましながら行います。</p> <p>◇やらせることにムキにならない。</p> <p>一緒に過ごすことで気持ちよくすることが大切になります。</p> <p>出来ないことを無理にさせることは、本人の自信の喪失につながってしまいます。「難しかったこと」「でもここまでできたこと」を認めて、誉めるほうが大切になります。</p> <p>以上のことから、自分は大切にされている。「まだできる」という自信につながれるように、現在取り組んでいます。</p>

議 題	協 議 内 容 ・ 結 果
	<p>・稼働報告</p> <p>4月は、デイサービス全体の稼働が、80.6パーセントであり、平均人数は、42名中、33.8名となっています。認知症対応型の稼働率は、64.7パーセントで平均人数は、7.7名と低い状態から今年度のスタートとなりました。</p> <p>5月は、徐々に上がっていき、全体の稼働が、83.9パーセント、平均人数は、35.2名と4月からは微量ながら増えています。認知症対応型の稼働率は、68パーセント、平均人数は、8.1名となっています。</p> <p>6月は、1か月の稼働は、88.1%、平均人数は、37名となっています。認知症対応型の稼働率は、76.4% 前月に比べ10%増となりました。平均人数は、9.1名となっています。</p> <p>6月は、前月に比べて全体的に増えてきています。</p> <p>7月は、今日現在で、全体の平均は、36.6名と先月よりは少々下がっておりますが、認知症対応型の平均人数は、9.7名と今時点では先月より、少しですが上がっております。</p> <p>前年度の運営推進会議で、委員の皆さんから認知症対応型の利用者が低迷していたところに「周りにもっとアピールをしたらどうか」というご意見を頂きました。今年度は、別紙を見ていただきまして、認知症対応型デイサービスのチラシを作成し各ケアマネジャーに配布させていただきました。</p> <p>今年度の4月から始めた活動の様子を写真にいれてお知らせをさせていただきました。そのおかげもありまして、4月の平均7.7名から先月6月は、9.1名まで平均人数が上昇しました。このチラシを説明し配布したことや、4月から取り組んでいる働きかけ「誉める・励ます・認める」の実践もありまして、徐々に人数が上昇となり、認知症対応型の利用者も集まるようになりました。</p> <p>今後も認知症対応型のデイサービスをアピールして、「誉める・励ます・認める」を職員全体で浸透していき、心地よいデイサービスにつなげられるようにしていきたいと考えております。</p>
	<p>・事故報告/相談報告</p> <p>うずらはしでは様々な委員会がありまして、その中に「リスクマネジメント(介護事故防止委員会)」という委員会があります。</p> <p>この委員会は、介護事故が起こらないよう環境整備に努めるほか、介護技術の習得に向けた研修の実施や介護事故が起きた場合には再発防止策の検証をしています。</p> <p>デイサービスと特養の職員が委員となり、毎月会議を開催しています。</p> <p>気を付けていても介護事故が起こる場合があります。</p> <p>事故に対し速やかに対応するとともに、起きた部署ごとに発生原因はなにか職員側の要因は何か、環境に要因はあるのか。</p> <p>本人側に要因があるのかと様々な角度から要因を考え同じような事故が起こらないように再発防止策を考えます。</p> <p>介護事故、ヒヤリハットを集計したものが、この「4月 集計結果」になります。一番上が「デイサービス」真ん中が「特養本館」一番下が「特養新館」の件数がのせてあります。</p> <p>この集計結果ですが、委員会だけが把握して終わらないように、各部署に配布、掲示しどのような事故が多いのか、どのような点に気を付ける必要があるのかを周知しています。</p>

議 題	協 議 内 容 ・ 結 果
	<p>一番下の三角形のピラミッドのような図をご覧ください。 「大きな事故一つに対して、300のヒヤリハットがあるとされています。 ヒヤリハットとは事故にまでは至らなかったものの、事故につながる危険を感じて 「ヒヤッとした」「はっとした」ことを言います。 日ごろから、ヒヤリハット報告をたくさん上げ、大きな事故を防いでいきましょう というのがこの図になります。 今年4月にデイサービスで起きた事故と事故にまでは至らなかったが「ひやり とした」 「はっとした」報告をまとめたものになります。 4月は、介護事故4件、ヒヤリハット5件 合計9件の報告が上がりました。</p> <p>発生時間は9:00 朝の送迎を終え、うずらはしの玄関に到着した時間になります。 93歳の女性、要介護1の認定を受けている方です。 杖や押し車を使用しなくても歩くことができますが、もともと膝の痛みがあり 時々ふらつくことがあり、職員が付き添い支えることがあります。 送迎用のワゴン車の脇のスライドドアをあげ、降りる際に額を車の上部にぶつ けてしまいました。ぶつけた反動でふらつき、職員が支えながら座席に座り 込んでしまい、転倒の危険も感じました。 膝の痛みがあり、歩行が不安定であったことから、 付き添った職員も本人も足元ばかりに注意を払っており、 頭をぶつけないようにという声かけが足りなかったことが要因として挙げられ ました。 対応策は、車内から降りる前に「頭をぶつけないように気を付けえてくださ い」という注意と併せて足元の段差にも気を付け降りてもらえるように声をか けるという予防策を考えました。この予防策は、今回額をぶつけただけでなく、 歩いて乗車する利用者全員に対しいえることであるため、この事故を活かし 介護事故であれば、ご家族や担当の介護支援専門員など関係機関にも状 況の説明と報告を行っています。</p> <p>この2つの報告であがった予防策で1W～2W程度様子を確認します。 実際に挙げた予防策が継続でよいか、修正が必要か再度検討し事故防止 に向けて取り組んでいます。</p> <p>4月の報告の一番下のグラフを見てください。 1番左が、発生時間帯 真ん中が、発生場所 事故の種別になります。 発生時間をみると、 利用者の皆さんが到着する9:00～入浴、昼食準備など昼の時間、午後の体 操やレクの時間など利用者の皆さんに動きのある時間の発生が多くなってい ることがわかります。</p> <p>次が5月の報告になります。</p> <p>5月は介護事故、ヒヤリハットともに1件ずつの報告でした。 5月の報告内容については、資料を参照していただきたいと思えます。</p>

議 題	協 議 内 容 ・ 結 果
	<p>今年度上がっている苦情相談を2件あげてあります。 5月の報告の下 相談記録 日付4/14 をご覧ください</p>
	<p>男性 80歳 要介護1 認知症対応型で週2回利用されている方です。</p>
	<p>朝、迎えに行くと奥様から話がありました。</p>
	<p>今朝着替えたので着替えは持たせません。</p>
	<p>この前 2～3回 着替えをしなくて帰ってきた。</p>
	<p>言おうかどうか迷ったけど、連絡帳にどう書けばいいのかわからないから</p>
	<p>何も書かないでおきました。もう持たせない方がいいとおもって、今朝着替えさせましたという内容でした。</p>
	<p>この方は衣類を脱いだり来たりする動作はご自分でできますが、脱いだものを着てしまうことがあったり、衣類の前後がわからない、入浴後にいつまでも</p>
	<p>着替えずに座っていることがあるため職員が声をかける必要があります。</p>
	<p>利用を開始してちょうど1か月くらいの時でした。</p>
	<p>職員に確認をすると、「着替えを持参する方であること」「身体状況として歩行や</p>
	<p>会話は可能であるが、着替えには声かけと見守りが必要であること」が職員間に周知されていないことがわかりました。</p>
	<p>改めて対応方法を周知し、ご家族には今まで通り着替えを持ってきていただけるようお願いをしたという内容です。</p>
	<p>いつもはデイサービスの連絡帳に「変わりありません」「トイレが大変で困りました」など、毎回コメントを記入してくださるのですが、今回の相談の中で、</p>
	<p>「言おうかどうか迷った」「どう伝えていいかわからなかったから連絡帳に何も書かなかった」というご家族の言葉がありました・・・</p>
	<p>そういわれて連絡帳を見ると3回ほどコメントの記入がありませんでした。</p>
	<p>この3回の利用の間、日数で言うと10日間ほどになりますがご家族はきつと</p>
	<p>「なんで持たせているのに着替えをしてくれないのだろう」「お風呂の状況はどうなんっているのだろう」と聞くに聞けず悶々としていたのではないかと思います。</p>
	<p>こちらが統一した対応をせず着替えの確認をしなかったということだけを気を付け</p>
	<p>なければいいのではなく、ご本人やご家族がどんな思いをしていたのか、そこを事業所としてしっかりと受け止めて対応しなければいけないと感じたケース</p>
	<p>でした。</p>
	<p>ご利用者やご家族は、事業所に対し言いたいことを我慢してしまったり・・・ということをよく聞きます。</p>
	<p>今回のように言ってお知らせお宅ばかりではありません。</p>
	<p>ですから、朝や帰りの送迎の時、電話でのやり取りなど…対応する時には、挨拶、表情、何気ない会話から少しの違いに気付くことができるように努めたいと思っています。</p>
	<p>この会議では、ご利用者のご家族を代表として田中さんに委員をお願いしていますし、地域の皆様にも委員になって頂いています。</p>
	<p>今後、うずらはしが良い施設となれるよう、</p>
	<p>普段の私たちのサービスの提供について、何か気付いたことがありましたらぜひ教えていただければと思います。</p>

議 題	協 議 内 容 ・ 結 果
	・地域包括支援センター塚野委員より
	→本人の言葉を聞くこと、具体的な行動目標を示されており、今後の広がり
	や効果に期待している。
	→「本人が何をしたいのか」をより明確にすると、より充実した活動となると
	思う。
	・利用者身元引受人田中委員より
	→利用後は笑顔であり、とても楽しんできた様子が伺える。引き続き対応
	をお願いしたい。
	・地域住民 丸山/泉/雲村/外石委員より
	→地域としては、運営に対し不審な点や改善してもらいたい点は特にない。
○その他	・地域合同防災訓練 → 10/9(水)13:30～夜間想定で実施予定
	・中山神社祭礼 → 8/25(日)うずらはしから担ぎ手4人参加
	※第二回は12月に開催予定。

○

○